

## 第2回 大井川大規模氾濫に関する減災対策協議会 議事要旨

1. 日時：平成28年6月6日（月） 9：00～9：50
2. 会場：島田市 プラザおおるり 3階第3多目的室
3. 出席者：会長 静岡河川事務所長  
委員 長島ダム管理所長・静岡地方気象台長・島田土木事務所長・中部危機管理局長・島田市長・焼津市長・藤枝市長・牧之原市長・吉田町長・川根本町長  
事務局 静岡河川事務所

### 4. 議題

- (1) 幹事会の報告
- (2) 「大井川の減災に係る取組方針（案）」の概要説明
- (3) 今後のスケジュールについて

### 5. 議事概要

- (1) 幹事会の報告  
第1回協議会以降の幹事会について報告し、確認した。
- (2) 「大井川の減災に係る取組方針（案）」の概要説明  
目標達成に向けた「大井川の減災に係る取組方針（案）」について確認し、了解を得た。
- (3) 今後のスケジュールについて  
今後のスケジュールについて確認した。

### 【出席者の主な発言内容】

- ・大井川は堤防整備率約95%に達する河川であるが、大井川に流入する中小河川の越水・氾濫が心配であり、中小河川の洪水防止対策に関しても国・県・市町で連携する必要がある。
- ・洪水ハザードマップ更新にあたり、補助金制度が欲しい。
- ・鬼怒川が氾濫したことを受けて、住民から、大井川は整備率が高いが現在の整備の状況で大丈夫なのか等の意見をいただいております、非常にタイムリーなタイミングで作っていただき感謝しています。

- ・単に不安をあおるだけにならないように、ハード整備による減災効果も示し、住民が的確に判断できる丁寧な説明が必要である。
- ・避難勧告を発令する基準が市町で統一されておらず、住民が不安になる。静岡県全体で統一までとはいかなくても、ある程度の一定の基準を整える必要があるのではないかと思う。
- ・風水害の被害に関して、正確な情報の入手が最も重要であると思う。そのため、今回の取組の中で示されているきめ細やかな情報連絡等共有化を目的とした関係機関との情報ネットワークが非常に重要であり、フォローアップを行うことが重要であると思う。
- ・大井川の下流域では、内水氾濫による被害が多い。このため、ハザードマップの作成に関しては、大井川とともに県管理河川の浸水想定が必要だと思うので、国・県管理河川が一体となった洪水浸水想定図の作成を国・県で調整して行っていただきたい。
- ・今回の取り組みで重要視されている住民の防災意識に関しては、昨年の水害以降高まってきていると感じ、河川事務所が実施した出前講座は大変好評だった。これからも住民の防災意識を高めるような有効な防災講座を実施していきたい。
- ・避難勧告の発令に関して、近年降雨が局地化・激甚化・集中化しているという状況から、多角的な情報収集が重要であり、国・県・自治体などの機関の水位情報や河川情報などの情報の収集・提供及び情報伝達の多様化をさらに図っていくことが重要であると思う。これに加え、住民への迅速な情報伝達が重要である。
- ・想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図に関して、これから行う大井川の整備の効果なども併せて区域図に記載していただきたい。
- ・大井川が 1/1000 の確率で発生する洪水で被害を受けるなら、その前に二級河川で被害が発生することから、浸水想定区域図の作成について、国・県で調整していただきたい。
- ・国土交通省・県・中部電力・自治体など河川に関わる様々な機関で情報共有を行っていくことが重要であると思う。
- ・大井川で心配なことは、河床の上昇である。河床が上昇すれば当然同じ流量でも洪水が起りやすくなることから、河道掘削を積極的に行っていただきたい。

- 二級河川（うち洪水予報河川や水位周知河川）の浸水想定区域図は、10年間を目処に整備していく。

以上を踏まえて、協議会構成員で協力して取組方針を実施していくことを確認した。

以上